加西市の未来を考える講演会

# みんなで進める
# これからの地域づくり

## ～自治会実態調査結果も含めて～

**【配布資料】**

作野広和
島根大学教育学部

この配布資料は，講演当日のスライドから抜粋したものです
ページ番号は異なりますので，ご注意下さい

# Ⅰ　はじめに

# 研究　：　研究室の分室「ラボ」

「松平ラボ」（江津市）

「さだラボ」
（出雲市佐田町）

「奥出雲ラボ」
（奥出雲町）

「邑南ラボ」（邑南町）

「飯南ラボ」（飯南町）

# 2020年度研究ラインナップ

★：共同研究：５　★★：科学研究費補助金：４

■地域運営組織の構築
・石川県白山市（28地区）

■地域運営組織の再構築
・兵庫県佐用町（13地区）★
・兵庫県加西市（10地区）★

■コミュニティビジョンの推進
・兵庫県豊岡市（29地区）★

■「小さな拠点」づくり事業
・島根県佐田町（13地区）・・・・「さだラボ」

■住民自治組織の再編　・・・・・「邑南ラボ」★
・島根県邑南町（10地区）

本年度100地区以上を対象

■「撤退学」（奈良県立大学）
・「むらおさめ」の実態と理論化に関する研究　★★（エントリー）

■地域史料アーカイブ
・歴史学・アーカイブ学科研　・・・「松平ラボ」★★

■高校魅力化
・島根県立矢上高校（魅力化推進ビジョン２期目）
・島根県立飯南高校（生命地域学の継続）
・鳥取県立米子西高校（みらいチャレンジの継続）
・鳥取県立日野高校（魅力化向上）
・兵庫県立佐用高校・網干高校（カリキュラム開発）

■公営塾・教育再生
・鳥取県日野郡ふるさと公営塾（日野町・日南町・江府町）
・保小中一貫教育のあり方検討（日南町）

■学校再編　★★（奈良大学）
・島根県奥出雲町（10小学校）　・・・「奥出雲ラボ」

■持続可能な地域づくりの推進
・島根県飯南町（国道54号アクションプラン推進協議会）
・・・「飯南ラボ」★

■砂丘と集落の形成に関する研究　★★（京都大学）
・鳥取県（東部海岸集落，3事例集落）　等

# 集落づくり・地区単位の地域づくり

■島根県奥出雲町（尾原ダム周辺地域における地域づくり）

■島根県飯南町（国道54号線アクションプラン推進協議会の運営）

■島根県出雲市佐田町（NPO法人との協働による地域づくり）

■島根県邑南町（集落・自治会・公民館のあり方に関する見直し）

■島根県江津市（松平地区を中心とした限界集落対策）

■島根県吉賀町（蔵木地区を中心とした地区単位の地域づくり）

■大田市馬路地区（まちづくりセンターを中心とした地域づくり）

■隠岐の島町西郷中町（小地域福祉活動の一環）　等

# 地域運営組織づくり・再構築

■島根県雲南市（全30地区，全国で最も有名な地域運営組織の一つ）

■島根県江津市（全23地区における地域運営組織の立ち上げ）

■島根県吉賀町柿木村（手づくり自治区柿木村を設立）

■兵庫県豊岡市（全29地区における地域運営組織の立ち上げ）

■兵庫県佐用町（全13地区における地域運営組織の再構築）

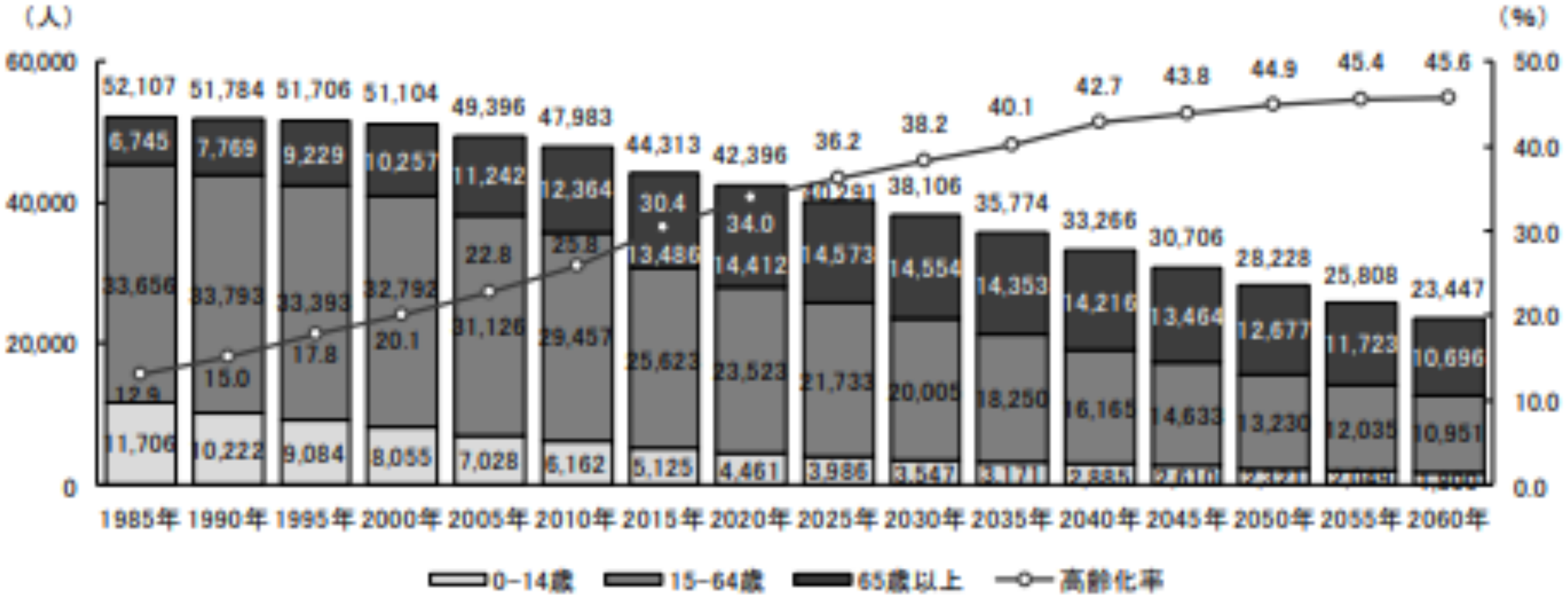
■島根県佐田町（全13地区における地域運営組織の再構築）

■石川県白山市（全28地区における地域運営組織の立ち上げ）

■兵庫県加西市（全10地区における地域運営組織の再構築）　等

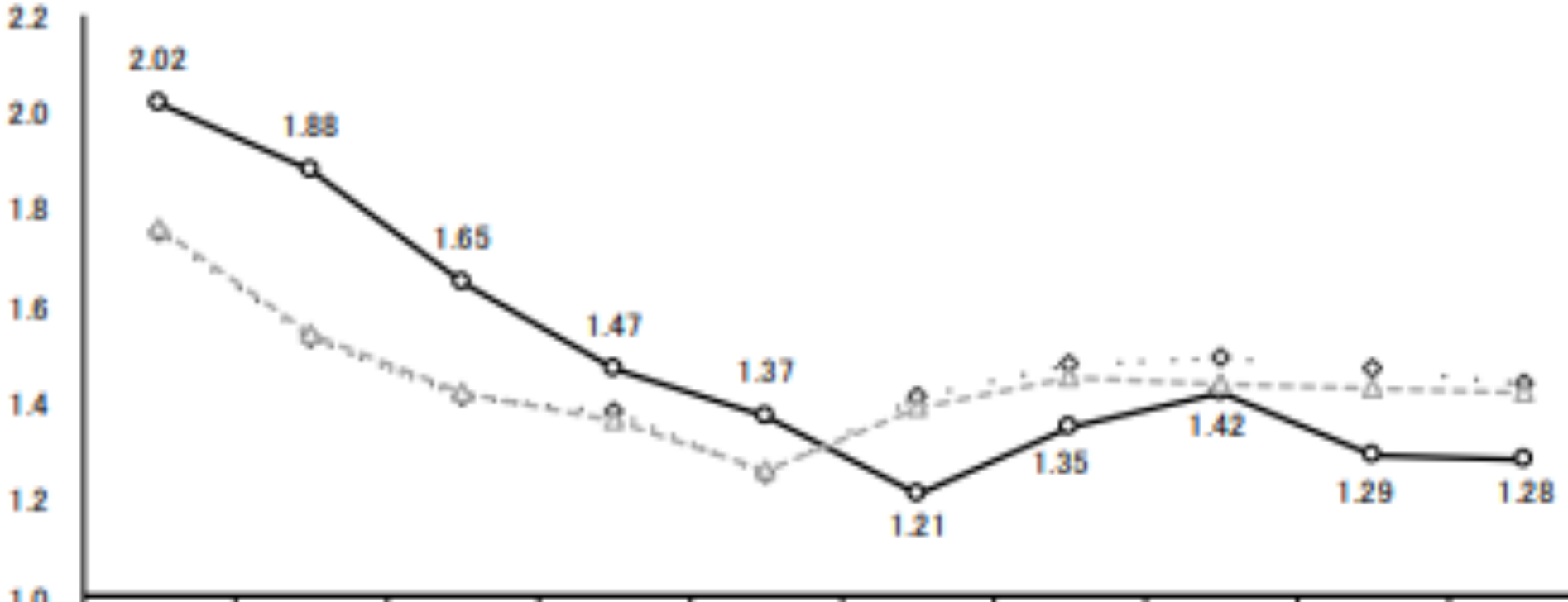
# Ⅱ　加西市の現状と課題

# 加西市の人口推移と将来予測（2015年～2060年）




（1985～2015年：国勢調査，2020～2060年：社人研推計）

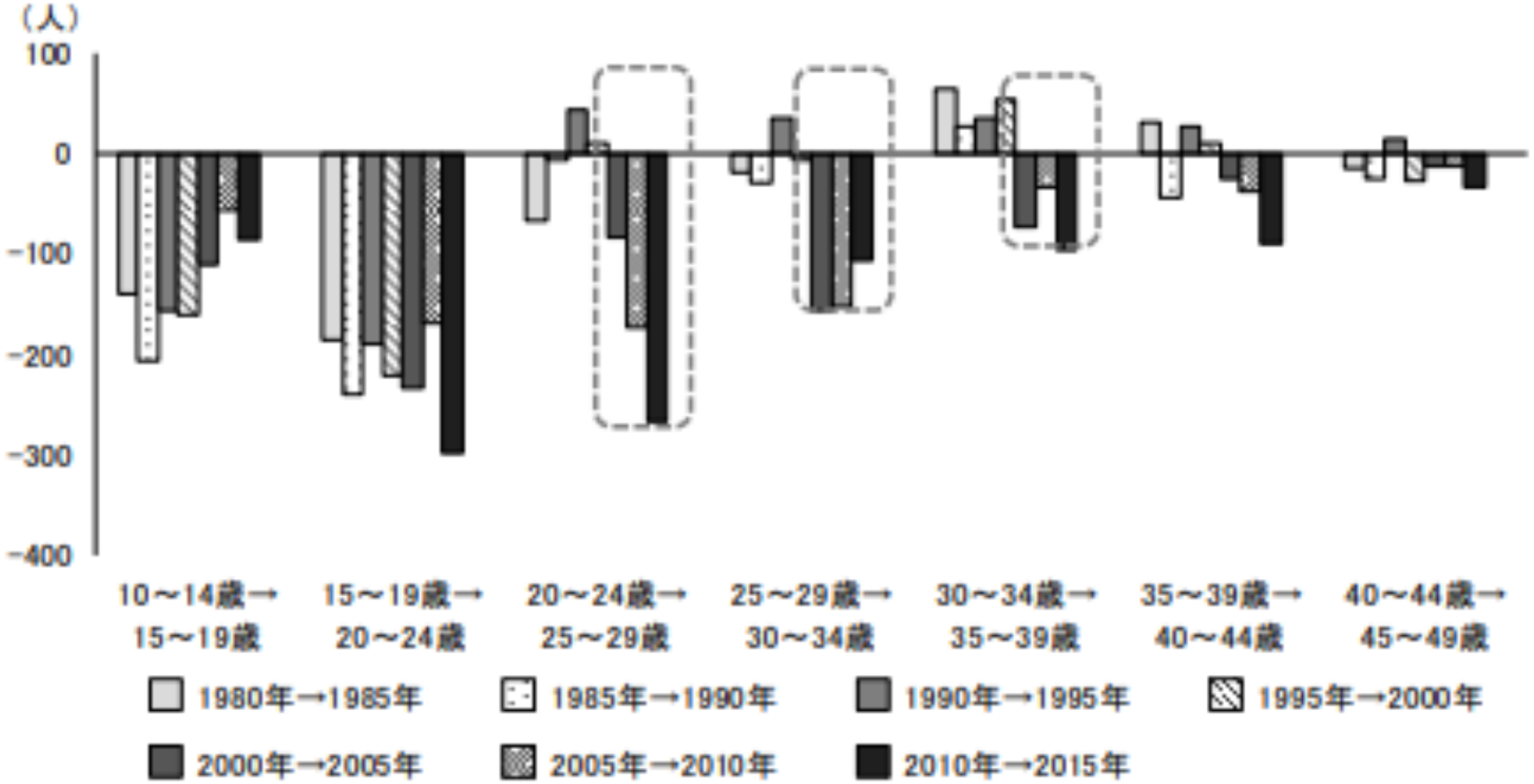
# 加西市・兵庫県・全国の合計特殊出生率の推移




| | 昭和60年 | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | 平成28年 | 平成29年 | 平成30年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 加西市 | 2.02 | 1.88 | 1.65 | 1.47 | 1.37 | 1.21 | 1.35 | 1.42 | 1.29 | 1.28 |
| 兵庫県 | 1.75 | 1.53 | 1.41 | 1.38 | 1.25 | 1.41 | 1.48 | 1.49 | 1.47 | 1.44 |
| 全国 | 1.76 | 1.54 | 1.42 | 1.36 | 1.26 | 1.39 | 1.45 | 1.44 | 1.43 | 1.42 |

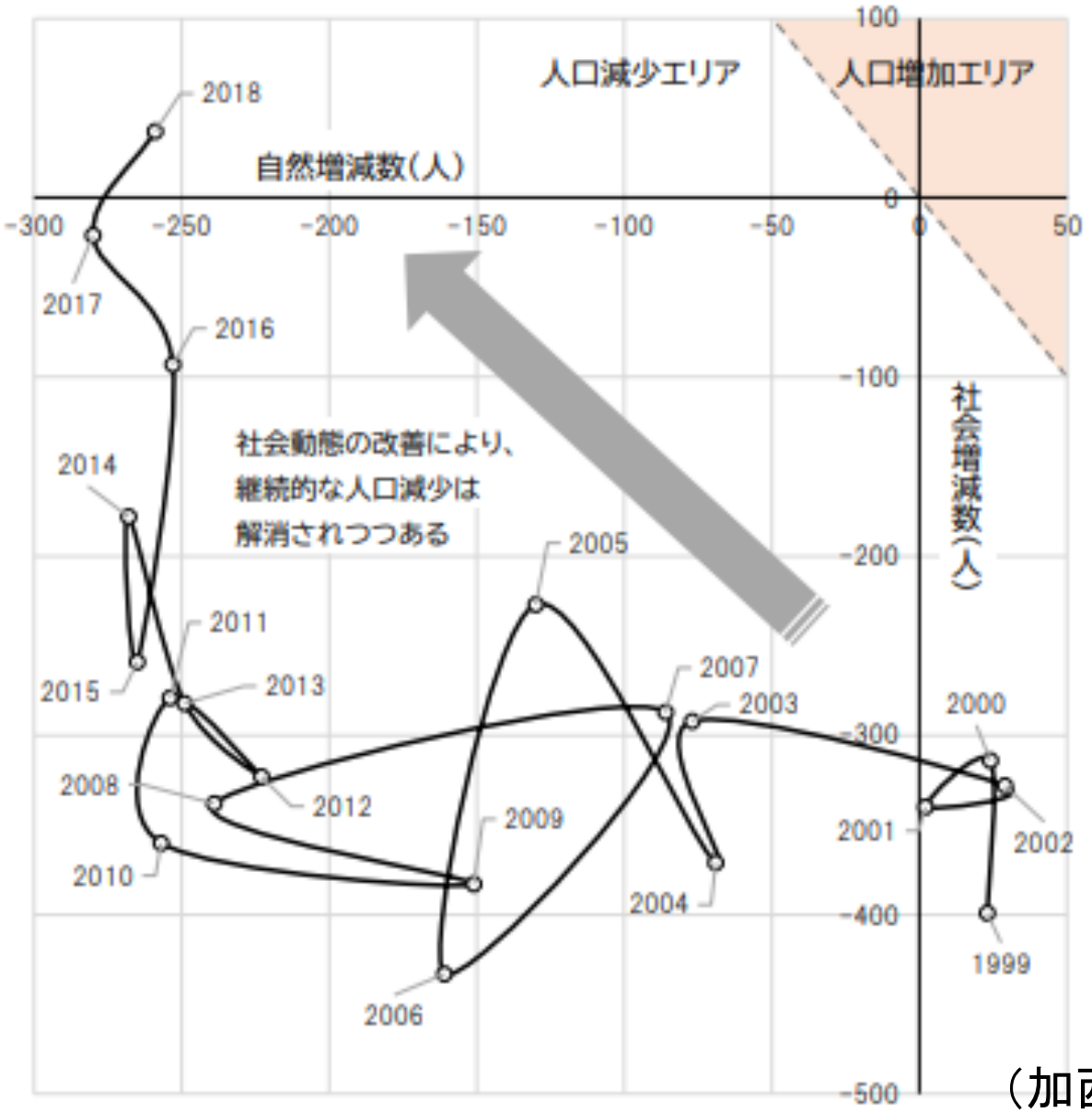
（「加西市統計書」）

# 加西市における女性の年齢別純移動率の推移（移動後1985年～2015年）




（総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成）

# 自然増減と社会増減の人口動態への影響




○1999年～2002年
　自然増・社会減

○2003年～2017年
　自然減・社会減

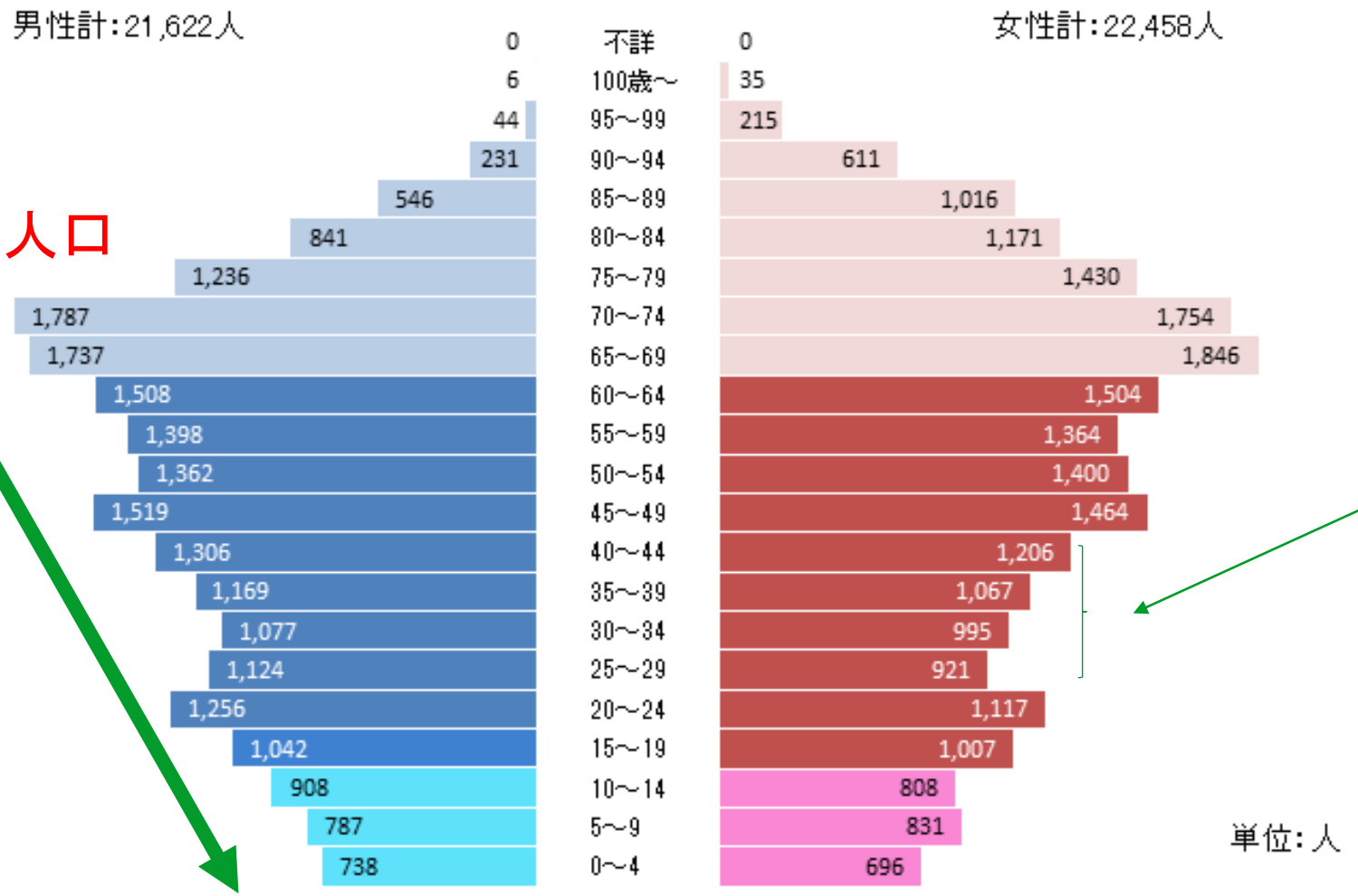
○2018年～
　自然減・社会増

圧倒的に自然減が多いため
社会増では追いつけない

（加西市住民基本台帳調査：各年９月末時点）

# 加西市の人口構成

加西市の2020年1月1日の人口構成（住民基本台帳ベース,総人口）




減少し続ける人口

少ない女性層

（加西市住民基本台帳調査：2020年1月1日時点）

# 加西市における地域的課題

住民による危機感が希薄

- か　快適な生活環境に恵まれ，困りごとはあまり感じない
- さ　さりとて，人口が流出，出生率が低いのはなぜ？
- い　いまは大丈夫かもしれないが，今後は・・・
- し　しっかりとした未来づくりのためのふるさと創造会議

行政が住民のためにつくった
「ふるさと創造会議」

# 「第2期加西市地域創生戦略」に示された基本目標の体系

社会的対応

## ＜少子化の歯止め＞

**若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる**

○結婚　○出産
○子育てと就労の両立

## ＜生産性向上＞

**若者・女性の仕事を生み出し，活力ある社会をつくる**

○雇用・就労
○ワーク・ライフ・バランス
○産業振興

自然増を目指す対策

社会増を目指す対策

## ＜暮らしの充実＞

**誰もが安心して暮らせる，共生する地域をつくる**

○健康・福祉
○防災・防犯
○公共交通　○教育
○コミュニティ・広域連携

## ＜住みよさ創出＞

**新しいひとの動きを生み出し，つながり交流するまちをつくる**

○観光人口創出
○シティプロモーション・観光
○空き家活用

地域的対応

# Ⅳ　地域づくりの必要性と住民自治の確立

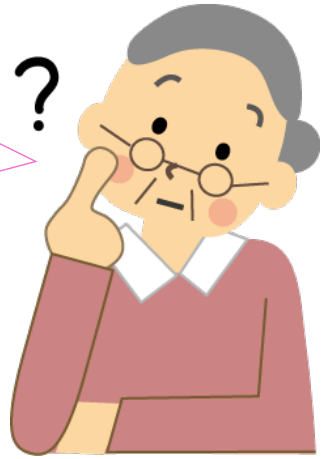
# 全国各地で共通する「困り事」 →少しでも解決することが「地域づくり」

若者が出ていって
どんどん人が
少なくなる

地域の役員の
なり手がいない

どの会合もだいた
い同じ人ばかり

婦人会活動はしたい
けど，だれも役員は
したがらない



車が運転できるうちは
何も不自由がないけど
この先を考えると不安

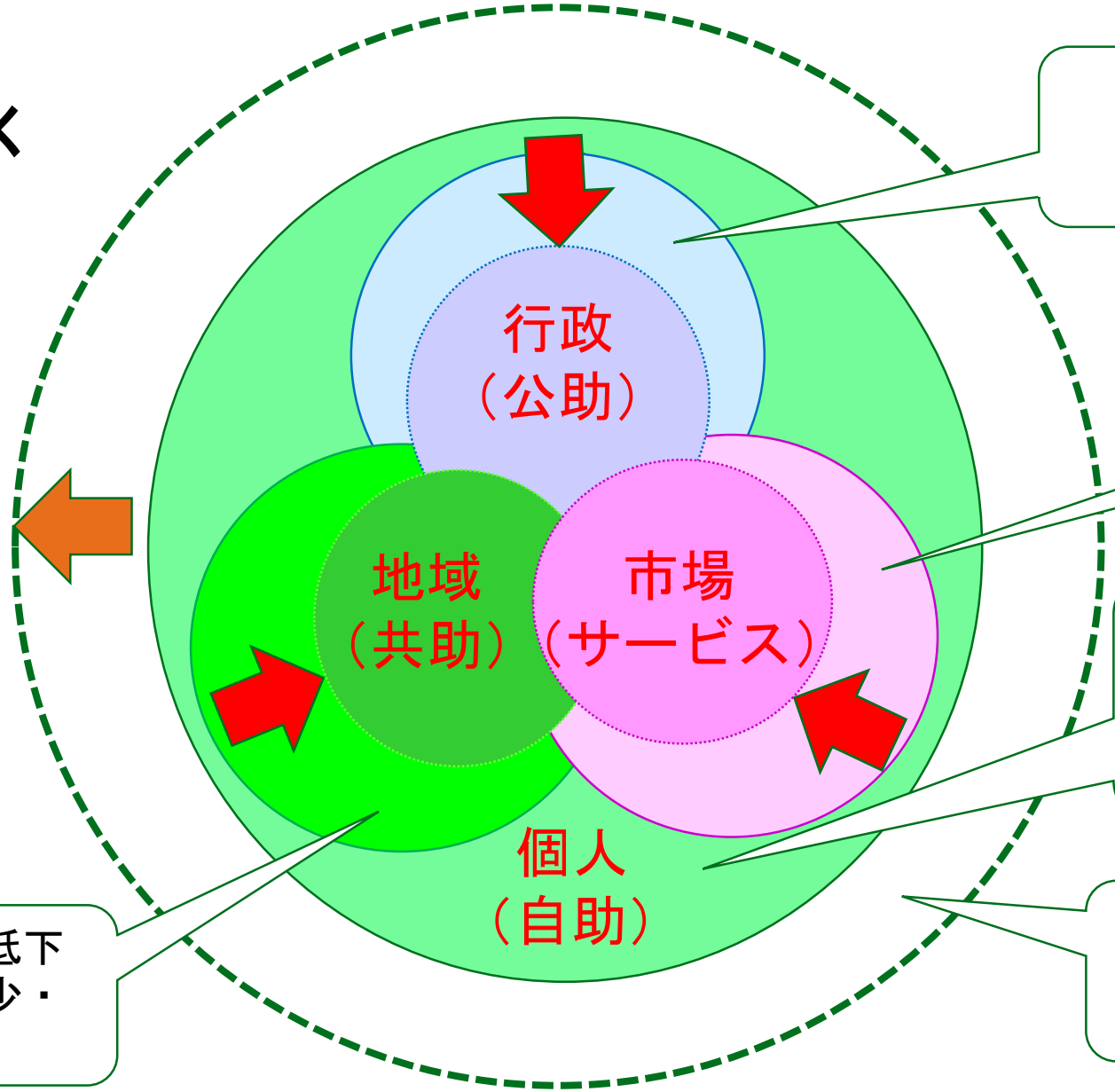
ご近所にお声掛け
したいけど，
プライベートな
ことに関わってい
いのかしら

**だれかが，どこかで，少しでも解決しなければますます住みづらくなる**

## 「行政」（公助）も，「市場」（サービス）も縮小 → 「共助」の重要性が叫ばれるが・・・・

**住民・行政だけではなく**
**みんなで地域を守る**
**本当の意味の**
**「公助」が必要**

**だから・・・・**
↓
**「新たな公」**
↓
**ふるさと**
**創造会議**




公的支援の低下
（財政事情等）

民間サービスの低下
（市場原理）

「自助」にウエイトを置き
過ぎると世帯間・個人間の
格差が大きなる

時代の変化で
新たに増える
対応すべき要素

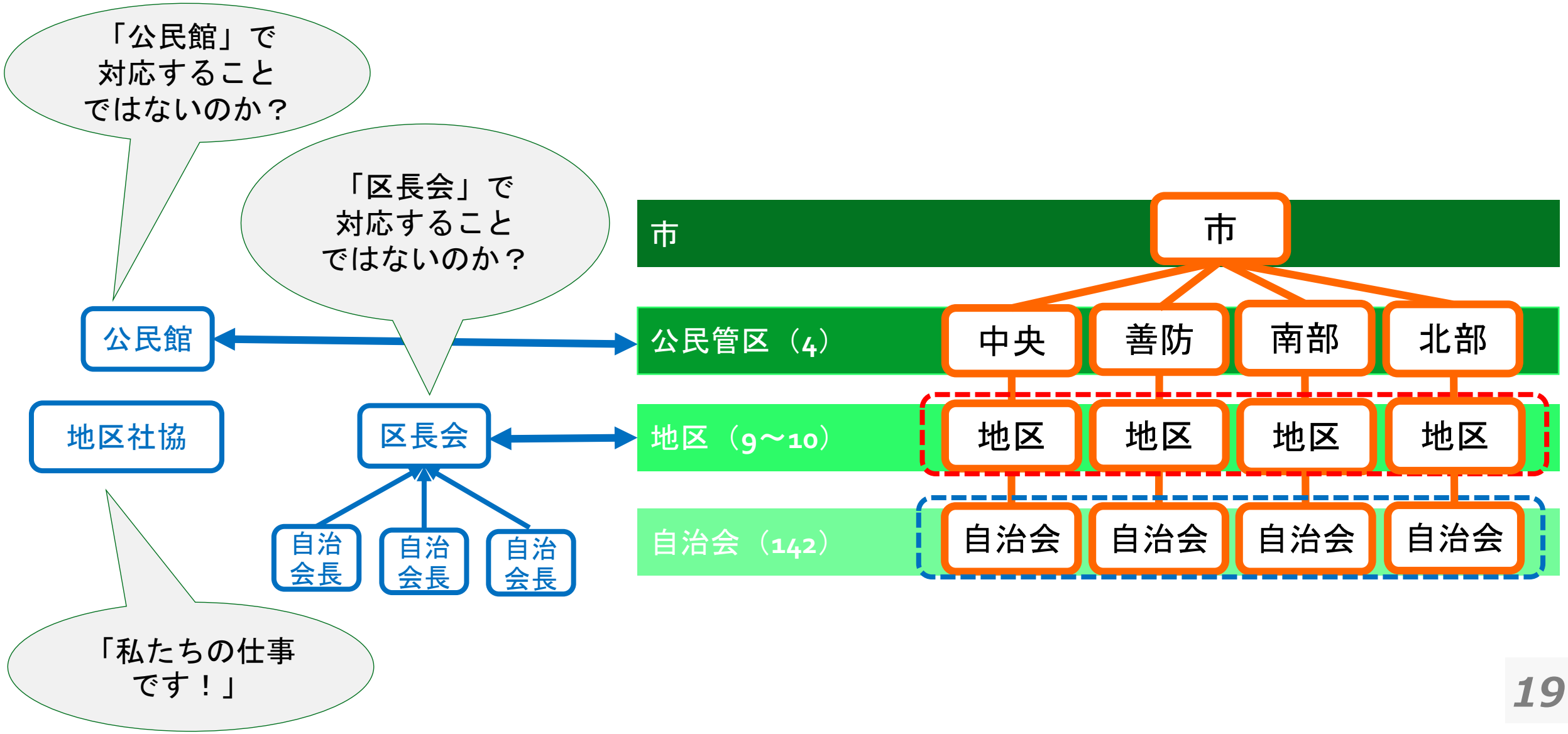
地域力の低下
（人口減少・
高齢化）

# 住民自治組織の階層性：市と協働のパートナーがふるさと創造会議

| 範囲 | 団体・組織の名称 | 役割等 |
|---|---|---|
| 市全体 | 代表区長会 | 地区の代表者によって組織される会。<br>各小学校区間の情報共有と連携をはじめ、行政と地区との連絡調整や意見交換等を図ります。 |
| 小学校区 | 地区区長会 | 小学校区内の自治会（町内会）で組織される会。<br>地区内の自治会が相互に連携し、情報共有や協力して活動を行います。 |
| | ふるさと創造会議<br>（まちづくり協議会） | 地区区長会をはじめ地域で活動する様々な団体が連携した組織。<br>地区区長会や自治会と相互に補完し合いながら、小学校区の問題や課題解決に向けての活動を行います。 |
| 地域 | 自治会（町内会） | 一定の地域区画を持ち、自主的な地域活動を実施。<br>まちづくりの基礎的な組織。 |

（加西市ＨＰより転載）

# 「ふるさと創造会議」は区長会と何が違うのか？



# 「生き残る地域」とは

「近所付き合いが残る地域」

「誰もが自由に発言でき，
みんなが耳を傾ける集まり」

浅見雅之アドバイザー
合同会社　人・まち・住まい
研究所　代表社員
一級建築士
兵庫県地域再生アドバイザー
町内では徳久地域づくり協議会
に携わっている。

**「生き残る地域」とは、近所付き合いが残る地域**

平成26年に、「消滅可能性地域」という言葉が取りざたされました。佐用町もリスト入りしていたのでご存知の人も多いでしょう。

「持続可能な地域」は、消滅可能性地域の反対で「生き残る地域」のことです。

では、「生き残る地域」とはどんな地域か。おそらく「時代の変化に柔軟に対応しながら、皆が元気にニコニコと地域活動ができ、共に助け合いながら生きられる地域」のことだと思います。

だとすれば、近所付き合いの希薄な都会よりも、佐用町のように「ちょっと面倒くさいけれど、近所付き合いが残っている地域」の方が「生き残る地域」と言えるのではないでしょうか。消滅可能性だなんてとんでもない!!

**「誰もが自由に発言でき、みんなが耳を傾ける集まり」が重要**

皆さんの地域で、例えば若い人が会議に参加し、新しい提案をしたときに「そんな事できるわけがない」とか、「お前は若いから何も分かっていない」などの反応をしていることはありませんか。そんな「発言すると否定される」「新しいことを言うと苦痛が待っている」ような会議では、新しい時代を生き抜くアイデアは出るはずがありません。

実は「生き残る地域」とは、「誰もが自由に発言でき、何を言っても怒られない会合」ができる地域だと思います。寄り合いでも飲み会でもいいです。そんな話し合いを定期的に行っている地域こそが「生き残る地域」だと思います。

「まず耳を傾けてみること」。そこから始めてみるのはいかがですか？

大学生との意見交換の様子（林崎）

（「佐用町広報」2020年６月号より転載）

# 「イエ」の集まりから「人」の集まりへ

両方大事

（新しい住民自治）

**区長会**
**（住民自治）**

**自治会・集落**
**隣保・組・班**

**共**

**ふるさと創造会議**

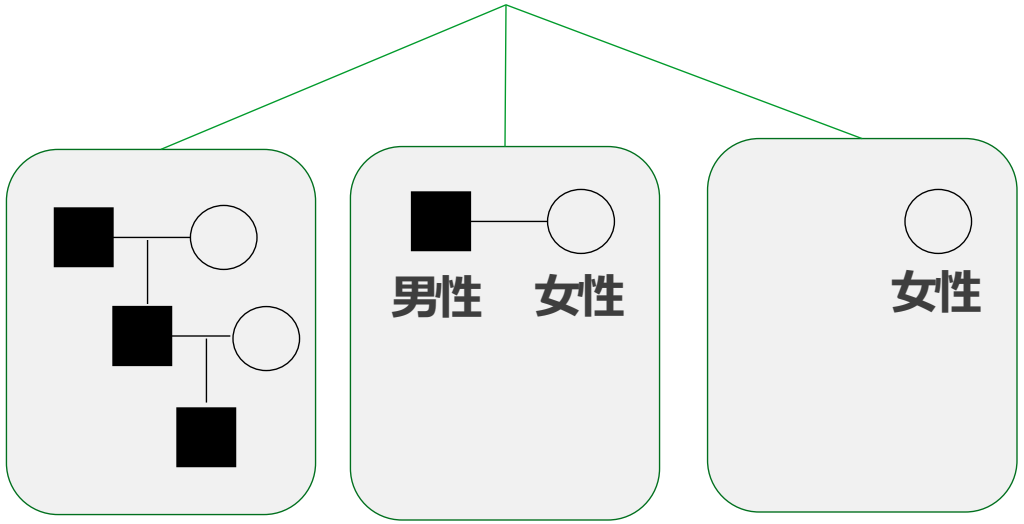
**公**

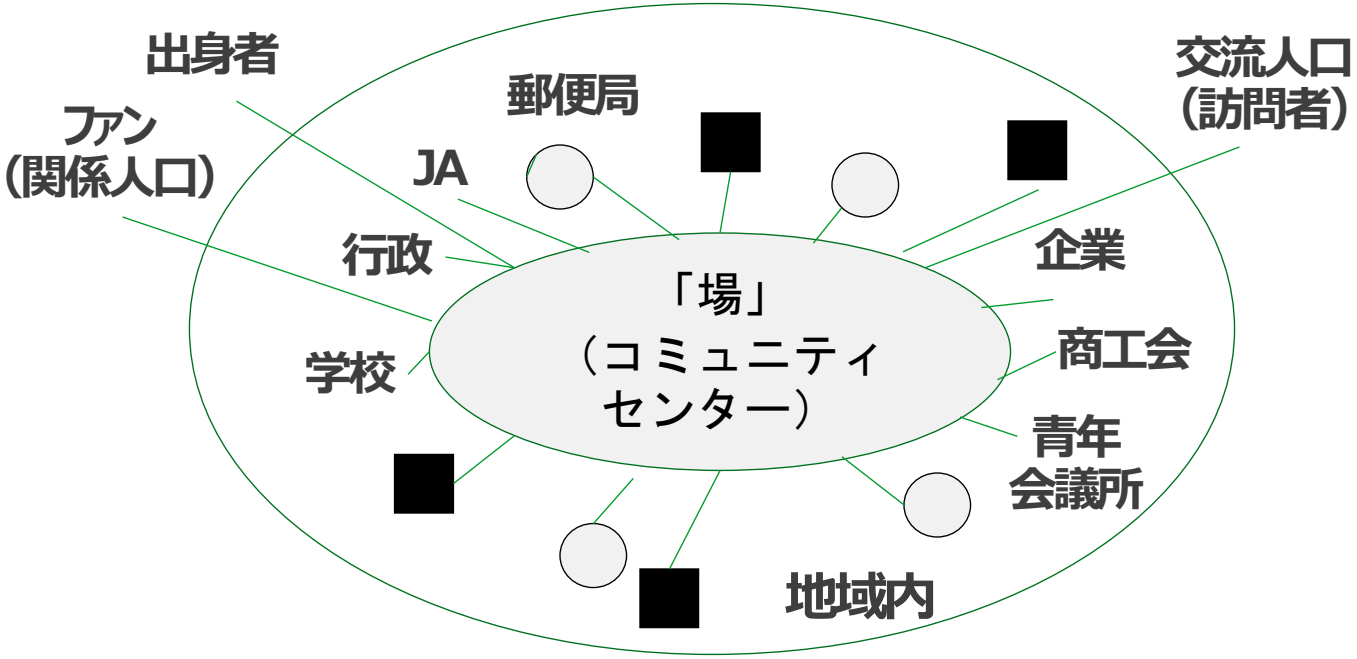
**地域振興　地域福祉　地域防災　人づくり**

**「イエ」の集まり**

**地域外**

**「人」の集まり**




**男性中心・伝統重視・強制的**

**満場一致の原則・一戸一票制**

**男女対等・緩やかな改革・選択的**
**緩やかな合意形成・一人一票制**

# ふるさと創造会議の目的（ミッション）：住民自治の確立

1. 「イエ」の集まりから「人」の集まりへ
2. 地域のことをみんなで考えるプラットホームづくり
3. 地域を計画的に運営する地域マネジメントの推進

最大のポイント：女性、若者、子どもの参画

# 地域運営組織（ふるさと創造会議）は何をすべきか？

地域課題の解決

<第１ステップ>

①組織づくり
**地域コミュニティ組織**

②拠点づくり
**地域コミュニティセンター等**

<第２ステップ>

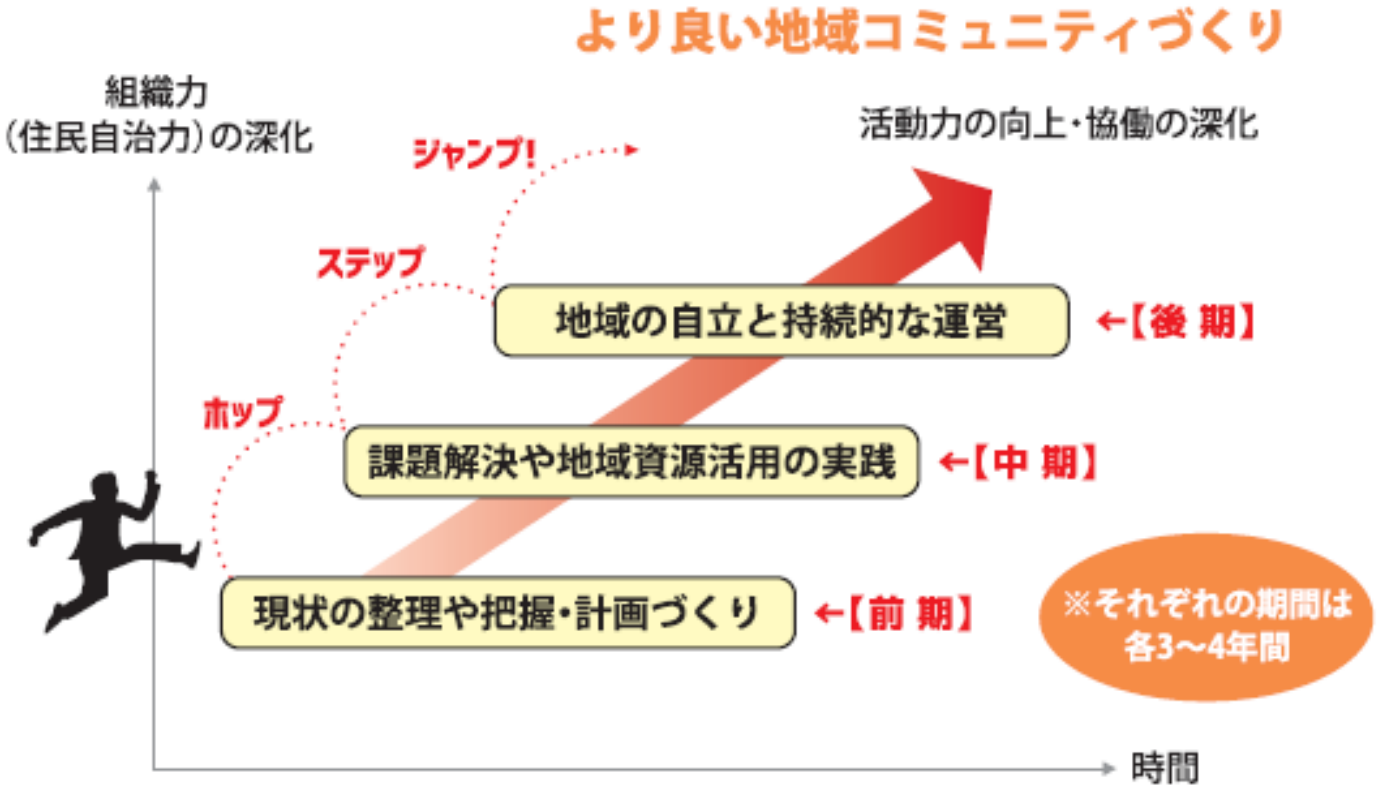
③計画づくり
**夢づくりプラン**

④人づくり
**多様な人材の参画**

地域資源の活用

**女性、若者、子どもの参画がポイント**

# 地域主体で未来を切り拓く必要性

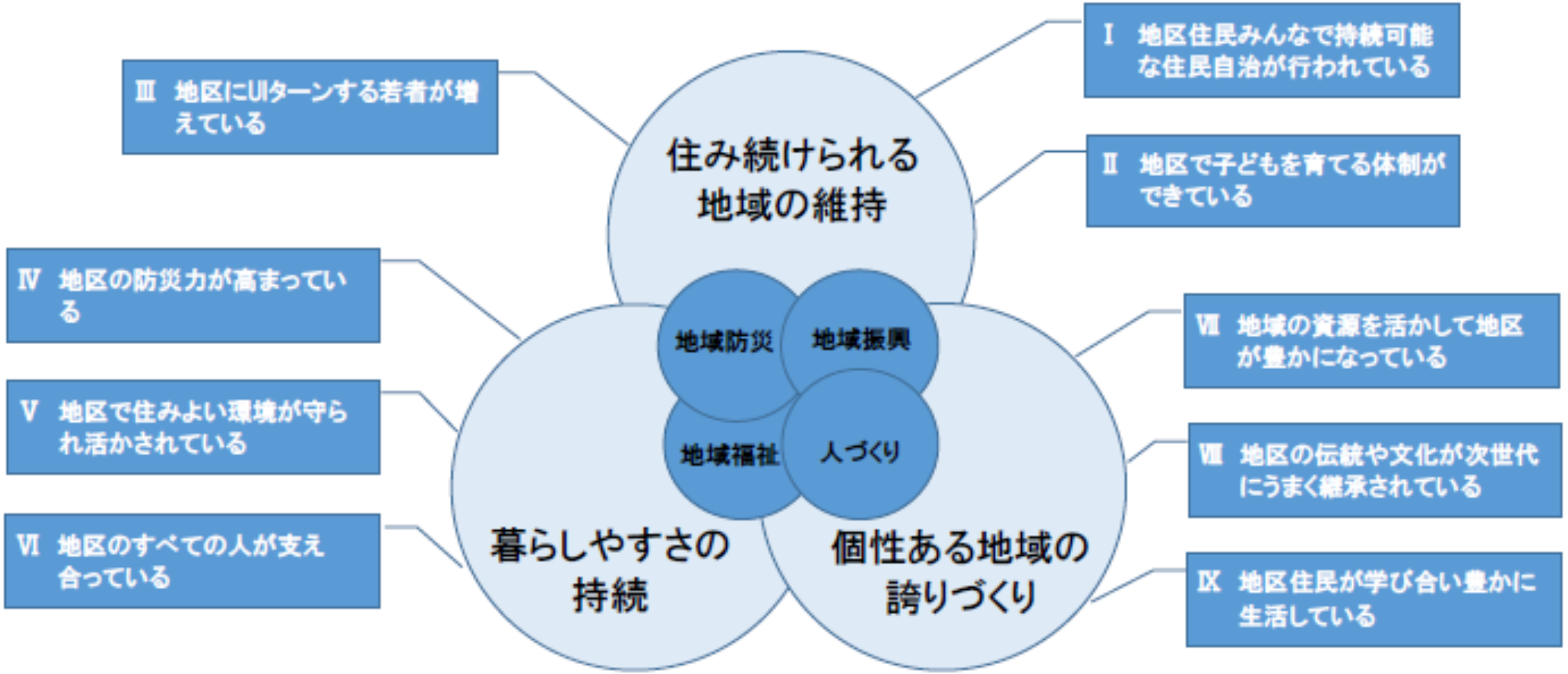



図表4-1　地域コミュニティの取組みを通じた組織力、活動力、協働の変容

**従来の慣行では限界がある**
**「計画」を立て，「実践」していく必要がある**
**効率化・再編・縮小もキーワード**

# 誰もが安心して幸せに暮らし続けられる地域

## 「豊岡市コミュニティビジョン」が掲げる地域コミュニティの将来像




図表3-1　めざす地域コミュニティの将来像

| 方針 | 具体的なコミュニティ像 | 分野 | 重点機能 | 地域 | 具体的な取組み例 |
|---|---|---|---|---|---|
| (1)住み続けられる地域の維持 | ①地区住民みんなで持続可能な住民自治が行われている | 住民自治 | 地域振興 | 共通 | 行政区を越えた自治運営を助け合う仕組みづくり、地区全体の自治運営の仕組みづくり　他 |
| | | | | 都市的地域 | 近隣住民によるさりげない声かけ、行事への丁寧な参加募集　他 |
| | | | | 中山間地域 | 行政区の行事の見直し、住民個々人の負担が軽減できるような仕組みづくり　他 |
| | ②地区で子どもを育てる体制ができている | 子育て・学校教育 | 人づくり | 共通 | 学校との連携・支援の更なる推進（読み聞かせ、通園・通学時の見守り活動等）、子育てサークル活動　他 |
| | | | | 都市的地域 | 親子で楽しめるイベントの実施、地区版ファミリーサポート事業　他 |
| | | | | 中山間地域 | 学校の清掃活動への地区住民の参加・協力、小学校及び地区の運動会での相互協力　他 |
| | ③地区にUIターンする若者が増えている | 移住・定住 | 地域振興 | 共通 | ふるさと教育の更なる推進・充実、SNS等による地区の情報発信　他 |
| | | | | 都市的地域 | 空き店舗のリストアップと活用の検討、日常的な交流による情報取得　他 |
| | | | | 中山間地域 | 空き家のリフォームによる定住促進、空き家の維持管理活動　他 |
| (2)暮らしやすさの持続 | ①地区の防災力が高まっている | 防　災 | 地域防災 | 共通 | 防災マップの理解促進、防災訓練、防災リーダーの育成、個別支援計画の策定促進　他 |
| | | | | 都市的地域 | 地域でのあいさつ運動、過去の被災経験の共有　他 |
| | | | | 中山間地域 | ご近所避難の取組み推進　他 |
| | ②地区で住みよい環境が守られ生かされている | 居住環境 | 地域振興 | 共通 | 高齢者や障がい者等の見守り、地域資源や魅力の把握、地域資源の管理方法の検討　他 |
| | | | | 都市的地域 | 集客施設や商店街の地域ぐるみでの美化活動、空き地・空き店舗の活用　他 |
| | | | | 中山間地域 | 農業の組織化・運営、農地の利活用　他 |
| | ③地区のすべての人が支え合っている | 健康福祉 | 地域福祉 | 共通 | 生活課題の協議の場の設置、さまざまな世代が参加するサロン・ミニデイサービス　他 |
| | | | | 都市的地域 | 常設型サロン・カフェの開設、こども食堂の運営、よろず相談窓口の設置　他 |
| | | | | 中山間地域 | 移送サービスの実施、小規模多機能拠点の運営　他 |
| (3)個性ある地域の誇りづくり | ①地域の資源を生かして地区が豊かになっている | 地域資源活用・産業 | 地域振興 | 共通 | 特産品の開発・販売・地域住民による積極的消費　他 |
| | | | | 都市的地域 | 地区内商店街の利用促進　他 |
| | | | | 中山間地域 | 体験交流イベントの実施、地区の魅力の情報発信　他 |
| | ②地区の伝統や文化が次世代にうまく継承されている | 伝統・文化 | 人づくり | 共通 | 歴史文化学習会の実施、歴史文化に関する世代間交流会の開催　他 |
| | | | | 都市的地域 | 新旧住民協働による神社・仏閣の定期的な清掃・点検・修繕、地区歴史文化遺産豆事典の作成　他 |
| | | | | 中山間地域 | 地区歴史文化遺産の研究・発信、地区の伝統文化体験ツアーの企画・実施　他 |
| | ③地区住民が学び合い豊かに生活している | 社会教育 | 人づくり | 共通 | 社会教育の体制整備、セミナーや講座などの実施状況の評価　他 |
| | | | | 都市的地域 | 子どもやその親が関心を寄せる取組みの実施、新たな担い手として世代交代が出来る仕掛けづくり　他 |
| | | | | 中山間地域 | 運動会のチームの再編、スポーツ行事の種目の見直し、さまざまな世代が参加しやすい工夫　他 |

# 全てを実施しなくてもよい

＜コツ＞

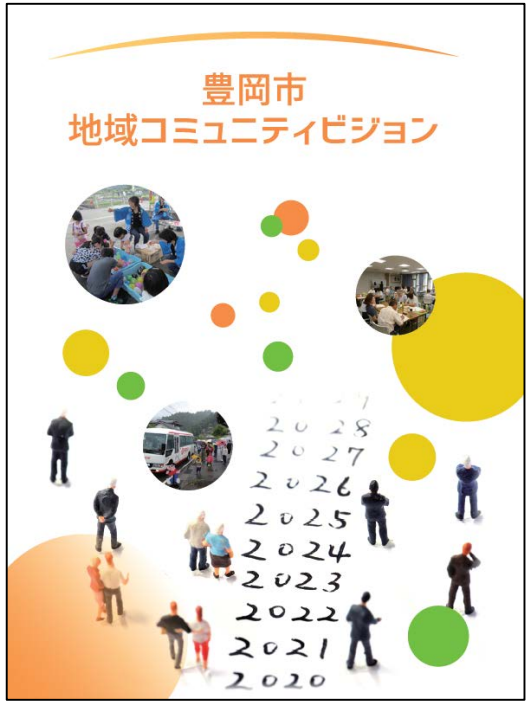
①地区において必要な要素を実施する

②地区においてシンボル的要素を中心に据える

③地区において「やりたいこと」「やるべきこと」を実施する

**「無理をせず」**
**「できることから」**
**「コツコツと」**

# 豊岡市第２章：「地域コミュニティビジョン」にもとづく「地域」と「行政」の改革




地域戦略会議
の設置

地域の改革
地区ビジョンの
策定

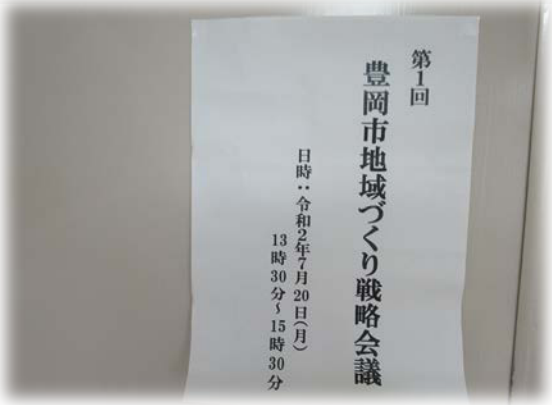
行政の改革
「アクションプラン」の策定と実施

中間支援組織
の構築

中間支援組織 ちいきのて

# その１　地域戦略会議の設置　地域づくりの司令塔

井原友建氏（NPO法人地域再生センター主任研究員）
垣江重人氏（元豊岡市防災監）
柏木登起氏（一社　明石コミュニティ創造協会事務局長）
木村尚子氏（一社　暮らしの学校農楽代表理事）
作野広和　（島根大学教育学部教授）



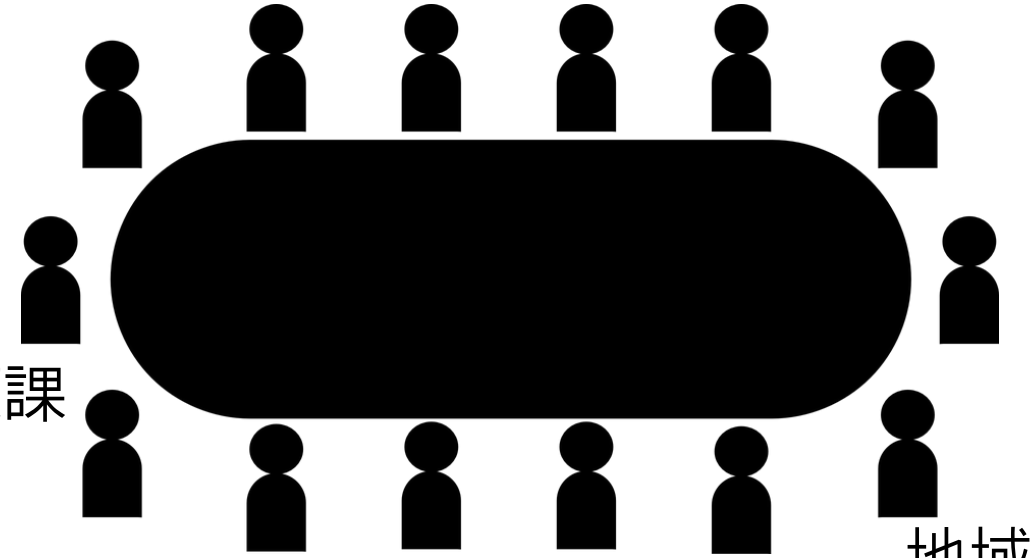
副市長

総務課

政策調整課

コミュニティ政策課

振興局（支所）



地域住民

中間支援組織　地域コミュニティアドバイザー（5名）

# その２　中間支援組織の設立　「つなぐ」「かかわる」「しかける」

設置された事務所

現在，2名の専任スタッフ

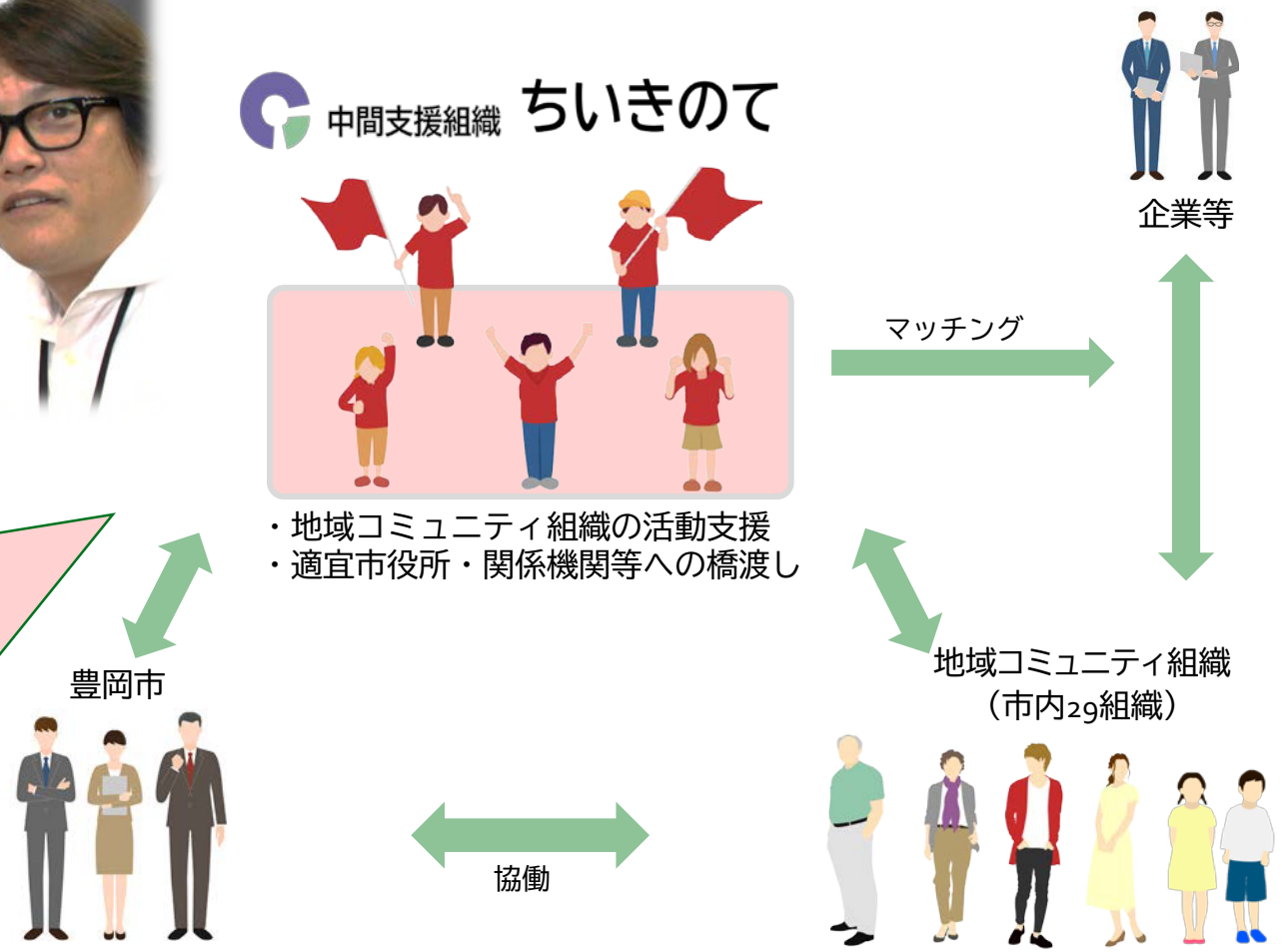
**中間支援組織　ちいきのて　の機能**

Ⅰ　マッチング

Ⅱ　コンサルティング

Ⅲ　コーディネート

Ⅳ　シンクタンク（情報整理）




（中間支援組織ちいきのて資料より転載）

# その３　トップダウンとボトムアップによる「行政」の改革

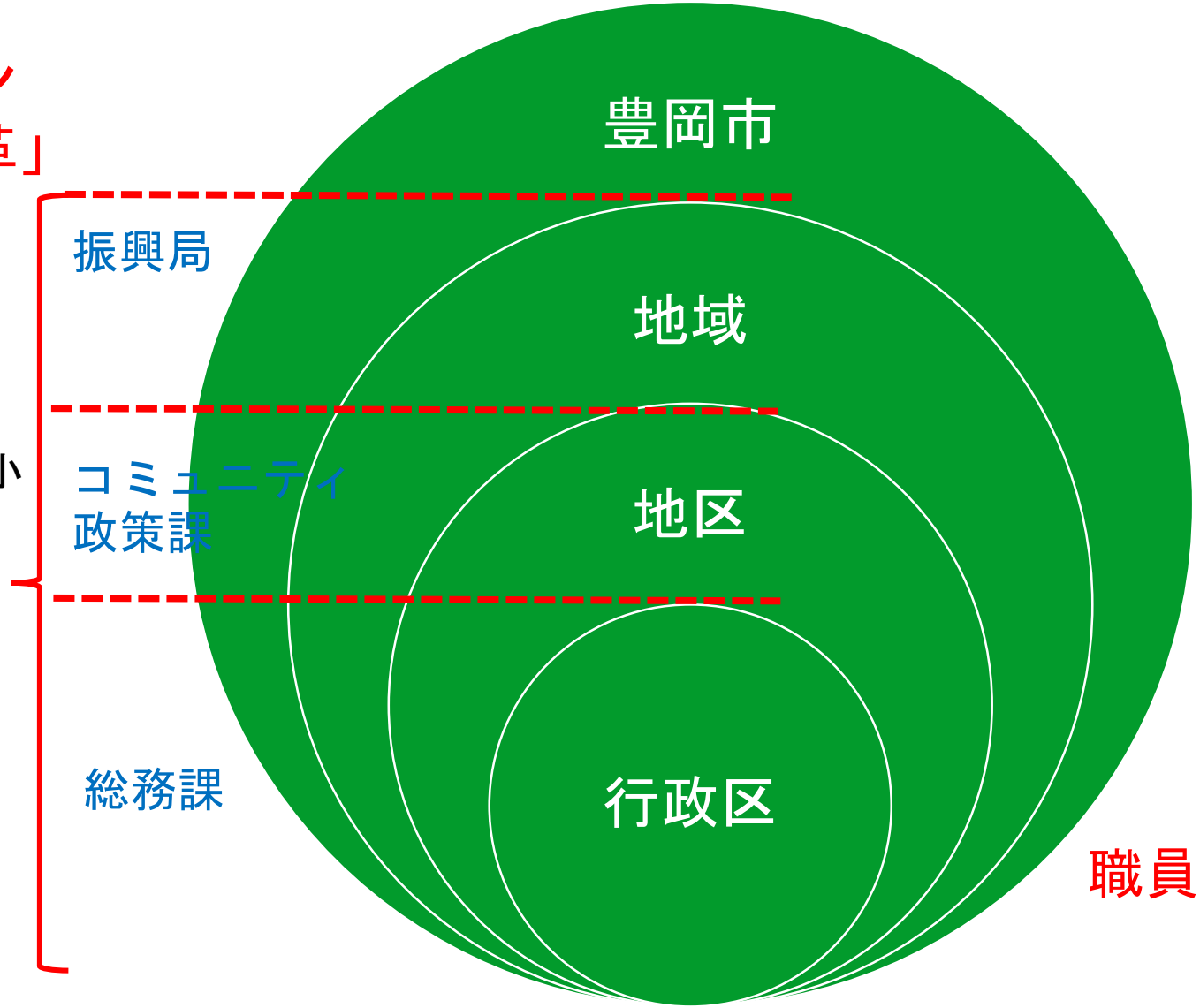
## トップダウン
「上からの改革」

(3)職員改革
　地域への主体的
　関わり

(2)行政改革
　地域依頼事項の縮小

(1)地域の窓口
　ワンストップ化

市長・副市長の
采配に期待




## ボトムアップ
「下からの改革」

(3)地域への関わり方の
　見直し

(2)既存事業の
　見直し

(1)委員・役職の
　見直し

職員ネットワーク会議

# Ⅴ　地域運営組織の改革

## ～兵庫県佐用町の事例～

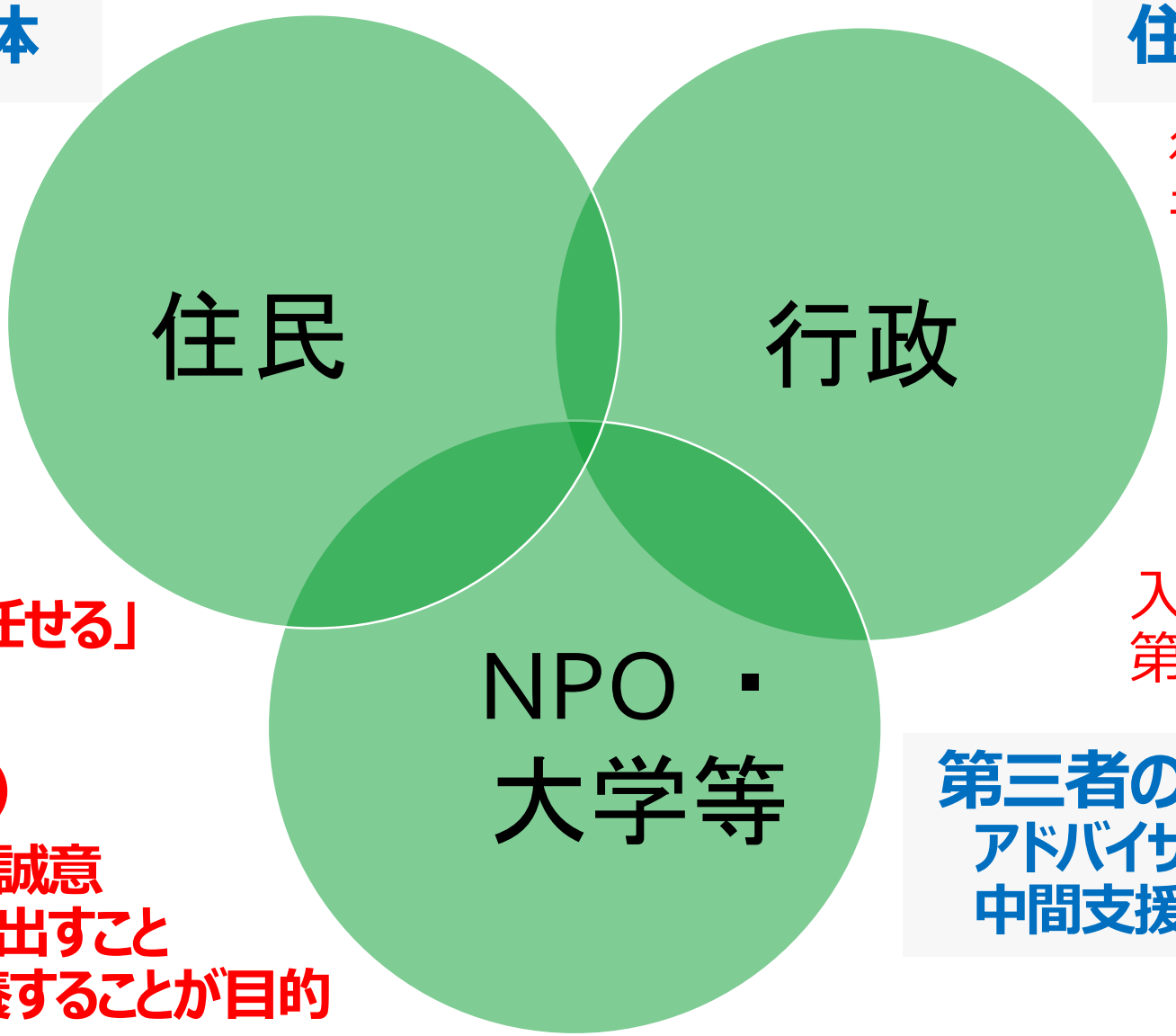
# 地域運営組織形成の主体：三者が有機的に連携 → 最初が肝心

**住民主体**

住民だけで考えたら
必ず楽な方向に向かう
↓
年配男性による年配男性のための組織づくりは元の木阿弥

**住民との協働**

行政は「着かず離れず」をモットー




入れ物づくりは行政と第三者で構築

**×「住民のことは住民に任せる」**

**×行政職員の地域駐在**
**（支所・出張所はOK）**

**×金を出すことが行政の誠意**
**必要なのは「知恵」を出すこと**
**住民の主体性を涵養することが目的**

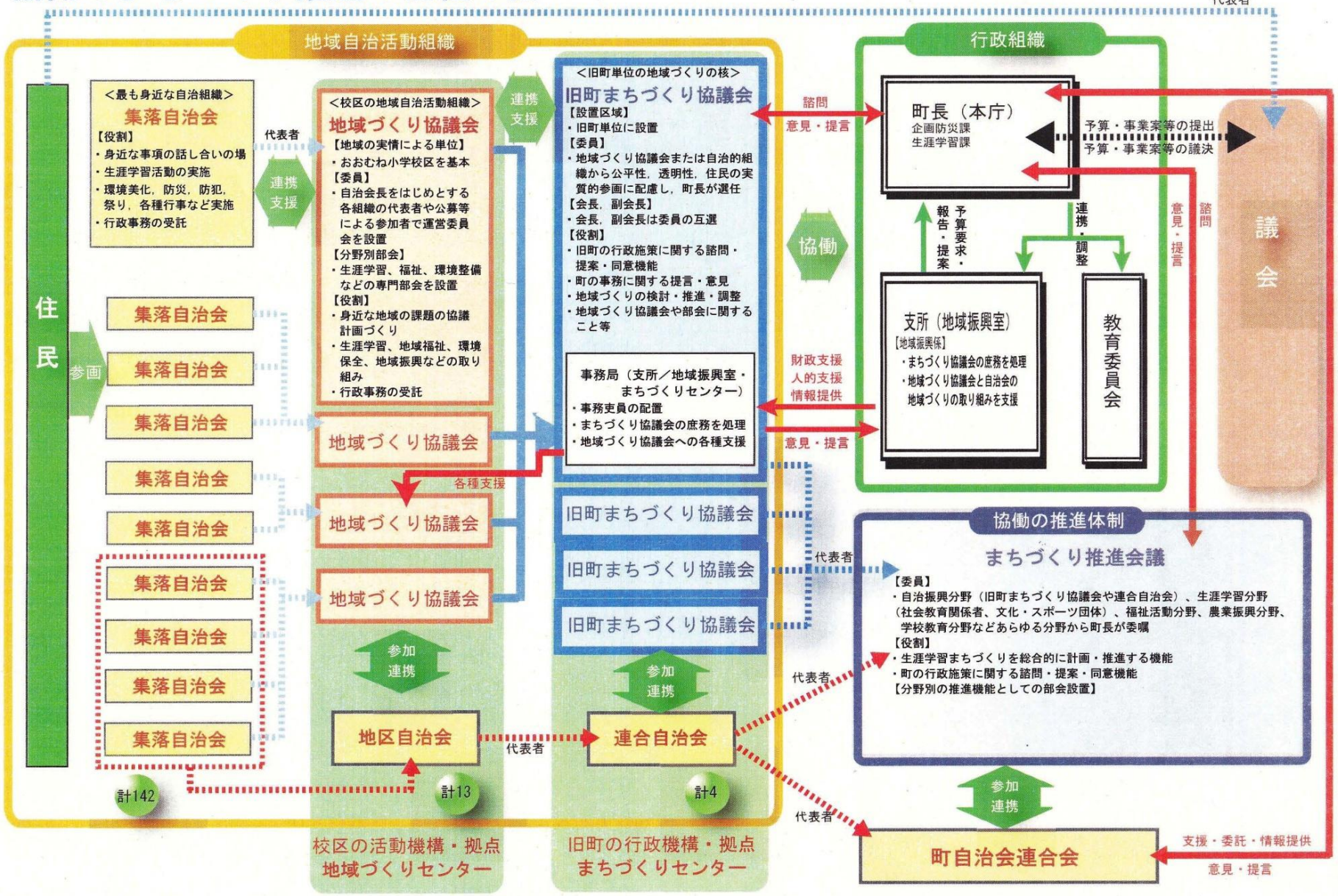
**第三者の存在**
**アドバイザー・**
**中間支援の必要性**

人口：約15,500人（高齢化率約40%）
地域運営組織：４町合併→地域づくり協議会（13地区）
課題：組織運営が住民任せのため活動が硬直化

事例

# 兵庫県佐用町の事例

# 協働のまちづくり推進の仕組み図




広域合併直後に
「協働のまちづくり」の
スキームを提示

全13地区に画一的な
地域運営組織が設立

地域住民はもちろん，
役場職員も主旨を理解
しないまま設立

行政の姿勢
「住民のことは住民に
任せる」
行政はお金だけを出す

どこから手をつけて
いいかわからないほど
硬直化

# 地域づくり協議会による成果　江川地域づくり協議会（11集落）

地域デマンド交通
（2010年より実証実験）

江川ふれあい号

ふれあい喫茶
（旧農協店舗：ふれあいホール）

ふれあい喫茶

特産物加工・販売
（焼栗・じねんじょ）

江川地域の特産品「江川栗」

陰陽師の里
（七夕行列）

陰陽師の里　江川　七夕行列

廃校となった江川小学校
（ドローン学校として活用）

旧佐用町立江川小学校

江川のロゴ入り
ビールづくり

# 地域づくり協議会による成果　長谷地域づくり協議会（６集落）

ふれあい長谷
（旧長谷小学校）

ゴトンボ荘
（古民家風新築住宅）

農業体験
（貸し農園）

ファブラボ西播磨
（Uターン技術者）

バンブーマウス事業部
（開発中のトレーラー）

ロケットストーブ（POCT)
・竹パウダー

キーパーソン
（Uターン）

# 地域づくり協議会再生の４年計画

18 検討委員会による方針策定

19 再生活動１年目

20 再生活動２年目

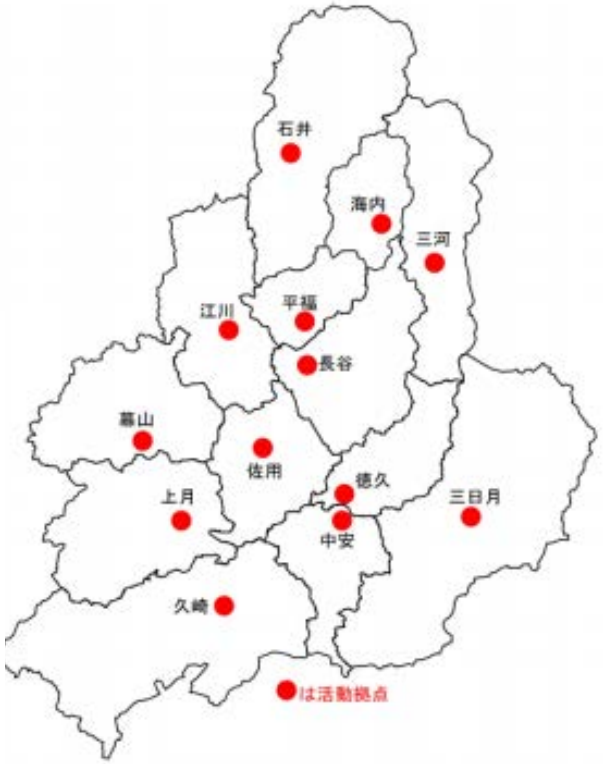
21 再生活動３年目

島根大学との共同研究

アドバイザー会議

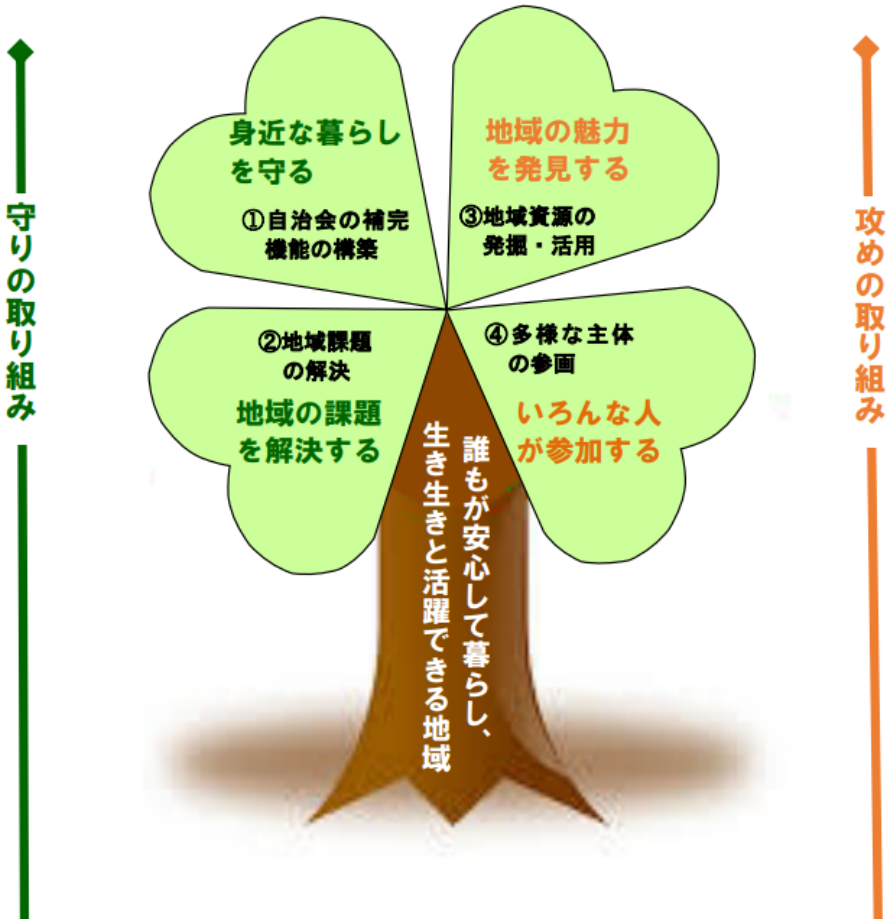
みん活フォーラム

# １年目：あり方検討委員会による検討



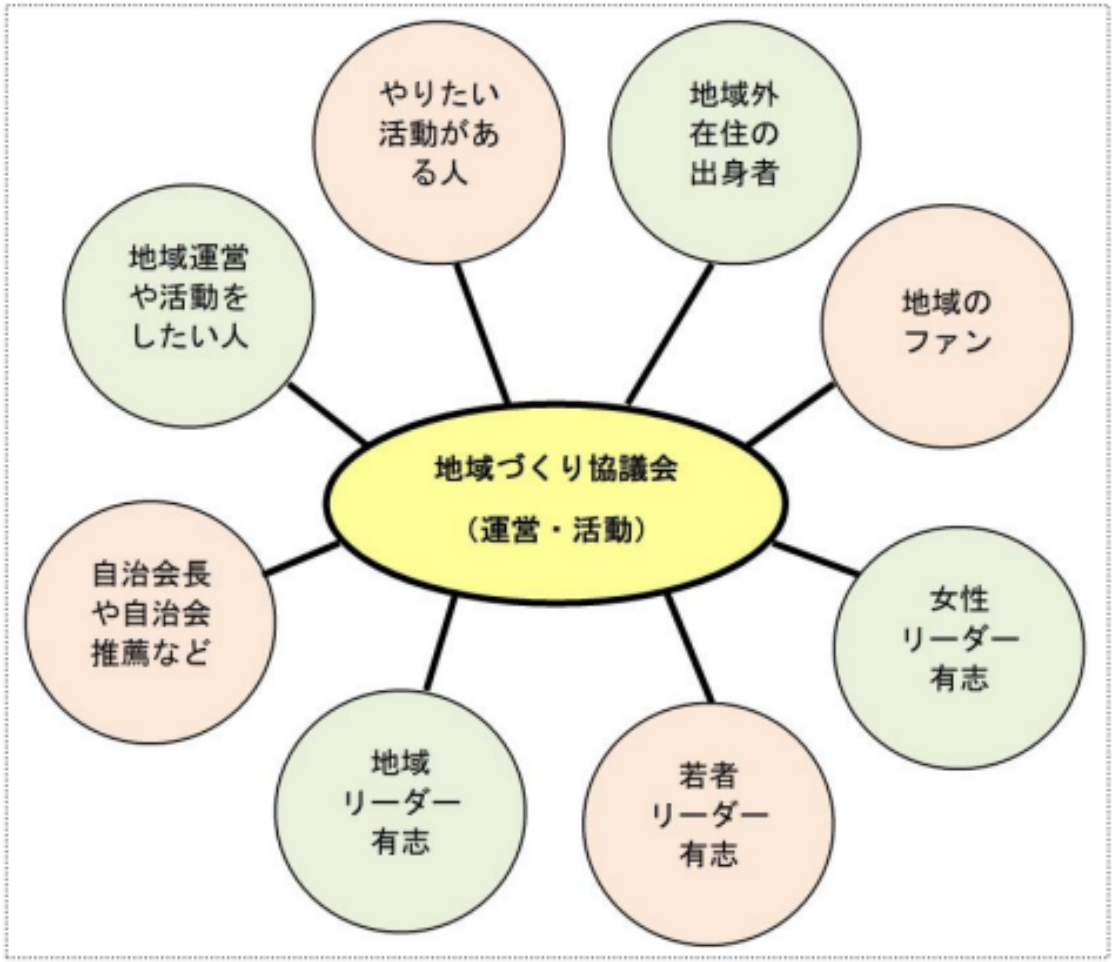
# 改革のポイント１ ：ミッションの再定義

| ４つの項目 | 「なぜこの取り組みが必要なのか？」 |
|---|---|
| **身近な暮らしを守る**<br>①自治会の補完機能の構築 | ・少子・高齢化などにより、今後ますます自治会の維持や活動が困難になることが予想されるため<br>・広い範囲や複数の自治会で実施するほうがよい取り組みについて広域的に実施するため |
| **地域の課題を解決する**<br>②地域課題の解決 | ・誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくため<br>・若者が住み続け、結婚・出産・子育てがしやすい地域を作っていくため<br>・地域全体で、将来を見据えた取り組みを行っていくため |
| **地域の魅力を発見する**<br>③地域資源の発掘･活用 | ・地域の魅力を発掘・再認識し、地域に愛着を持つため<br>・地域外へ魅力を PR し、都市住民との交流や観光客誘致などにより、地域を活性化させていくため<br>・伝統芸能や文化などを継承し、後世に引き継いでいくため |
| **いろんな人が参加する**<br>④多様な主体の参画 | ・様々な人が参画することで、多様なアイディアや技能を地域づくり活動に活かすことができるため<br>・地域外の住民や企業などの参画により、地域づくり活動に必要な人材を新たに確保することもできるため |



# 改革のポイント２：多様な主体の参画

地域づくり協議会への
参画は
住民だけではない！



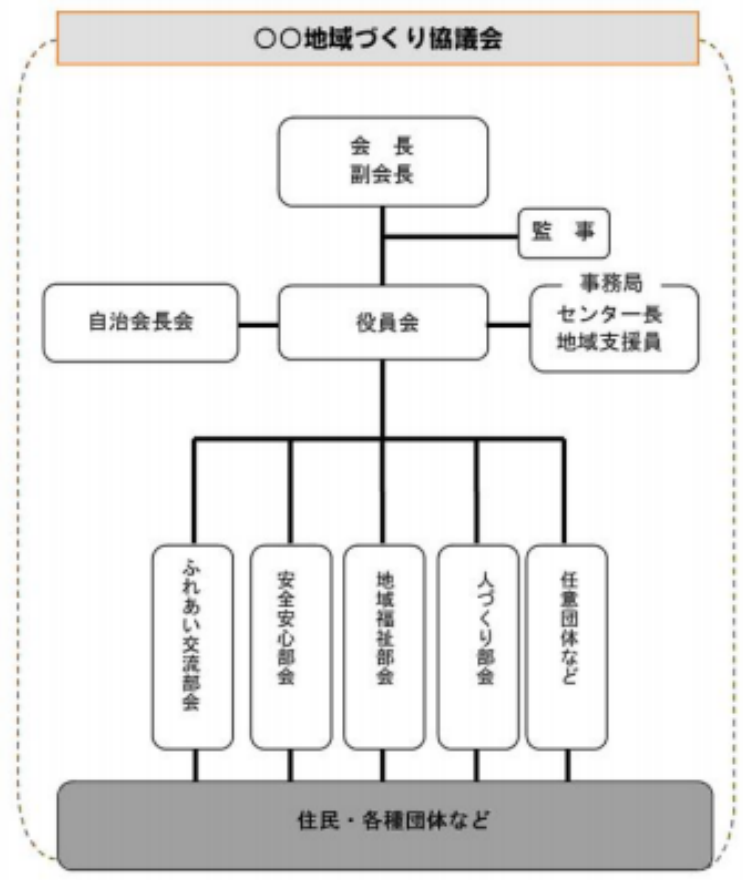

■地域内組織
- JA
- 郵便局
- 社協
- 企業
- 商工会女性部・青年部　等

■地域外住民
- 出身者
- 来訪者（交流人口）
- 関係者（関係人口）

# 改革のポイント３ ：組織のスリム化

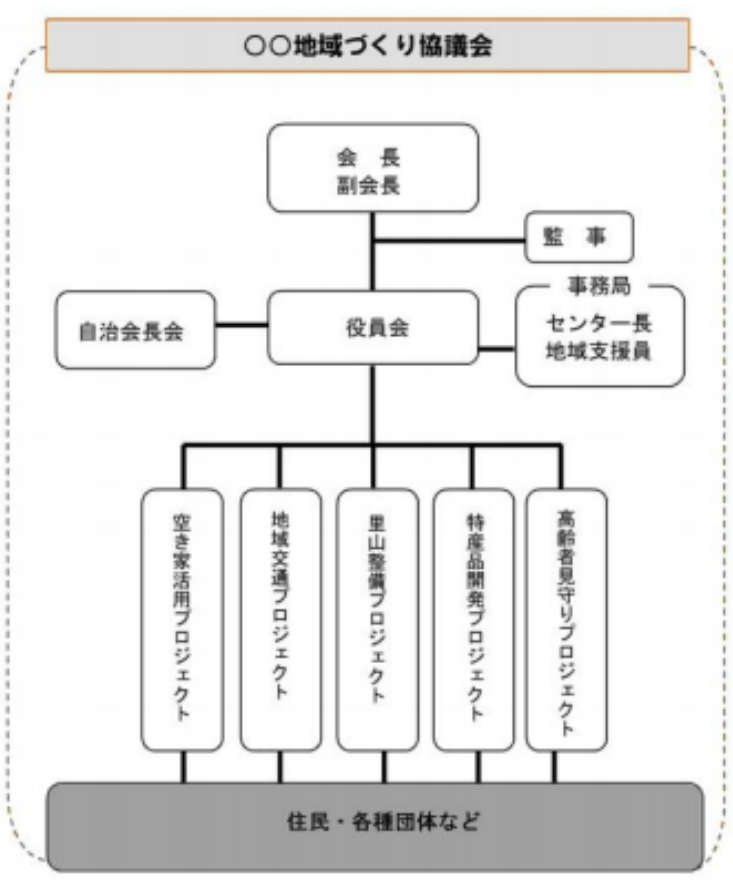
**《組織図の例①》**

自治会長会が地域づくり協議会の運営や活動内容などに積極的にかかわるケース




**《組織図の例②》**

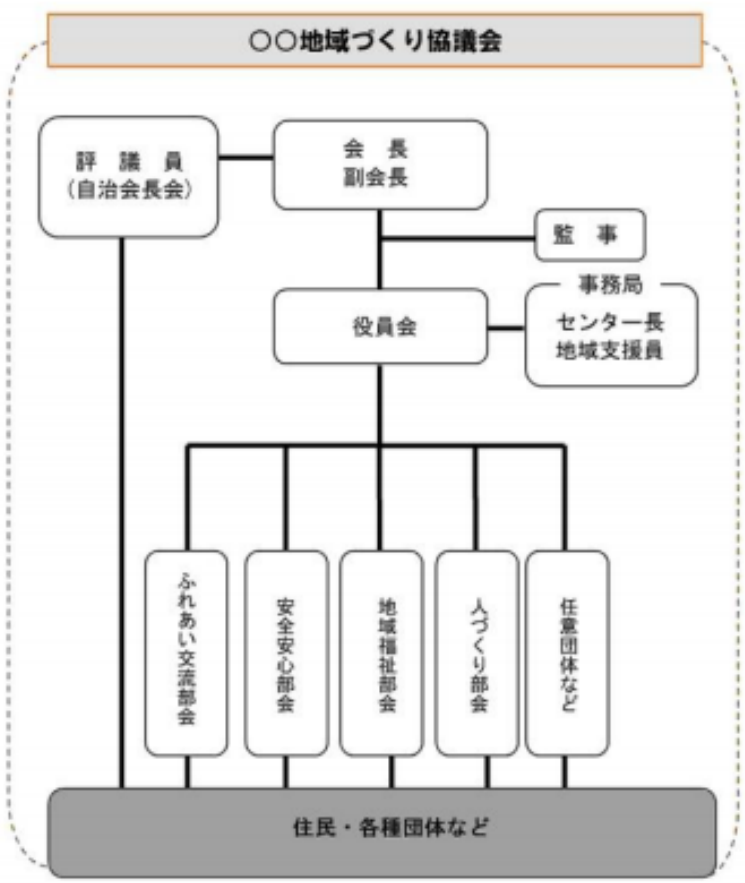
個別の課題に対し、それぞれプロジェクトを立ち上げ、問題解決に取り組むケース
（その他の仕組みは、例①に準ずる）



# 改革のポイント３ ：組織のスリム化

**《組織図の例③》**

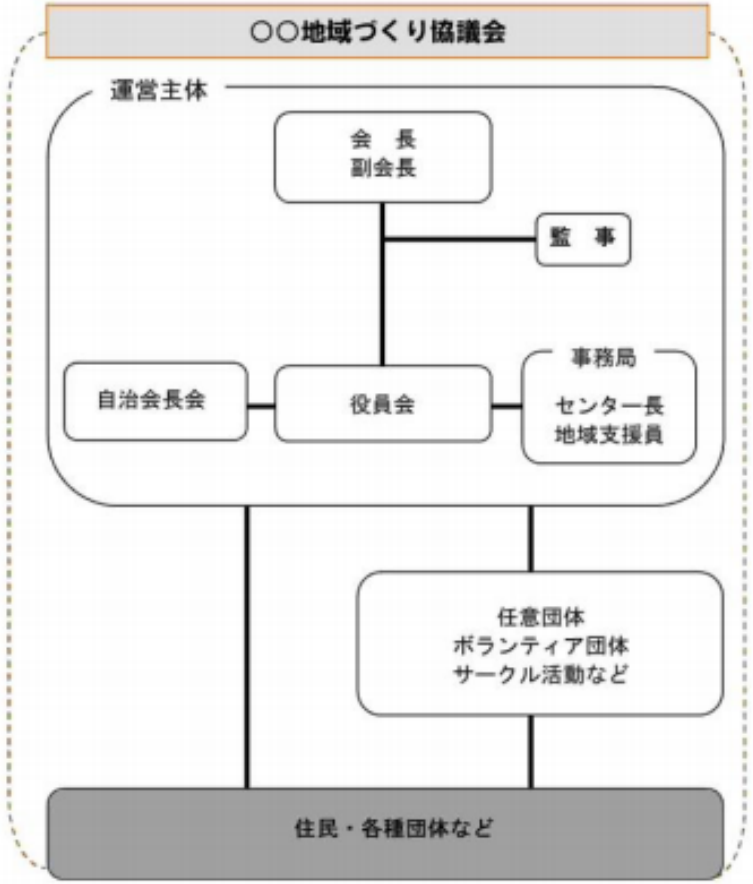
自治会長会が評議員となり、地域づくり協議会と意見交換や相談を行うケース




**《組織図の例④》**

部会を作らず、地域内の任意団体やボランティア団体等の活動を取り込むケース

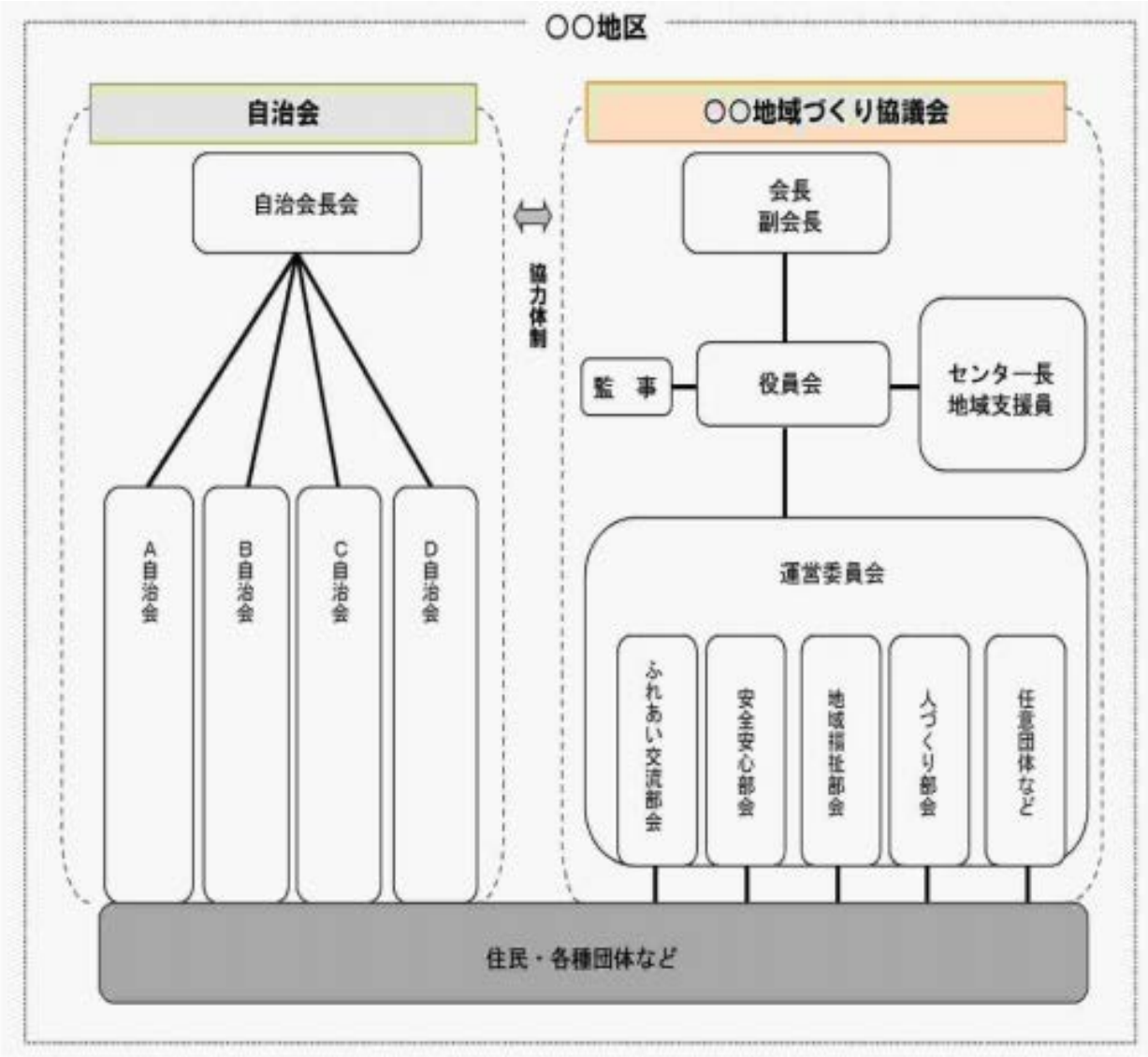
地域づくり協議会が直接実施する事業は、運営主体により実施



# ポイント４：事務局の再構築

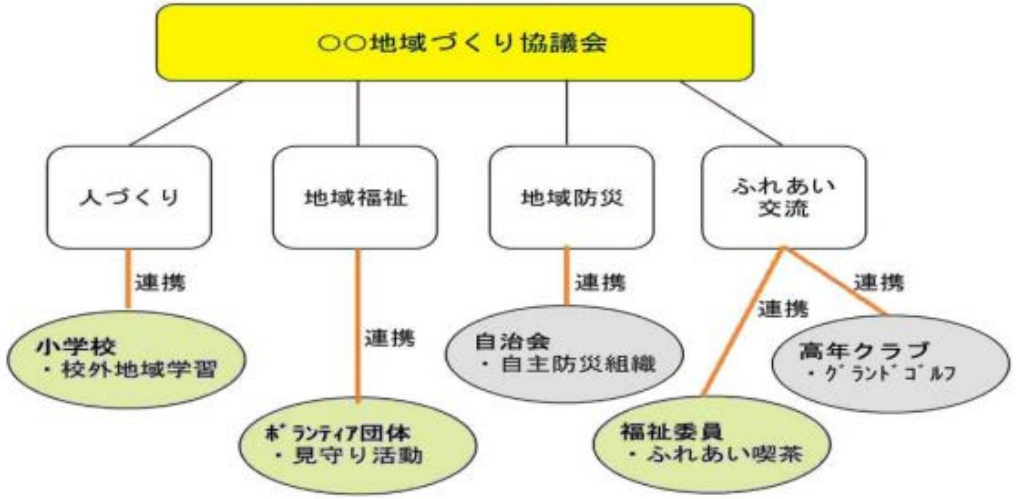
みんなが参画している
地域づくり協議会に
なっているか？

- ■センター長だけが動いていないか？
- ■部会は機能しているか？
- ■「やりたい人」が参画しているか？
- ■女性，若者，子どもの参画は
  あるのか？




地域の中で，「やりたい」人は必ずいます

# 改革のポイント５：事業の見直し




| （調整前） | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ○○自治会 | | 球技大会 | 河川清掃 | | 盆踊り | 河川清掃 | 運動会 | 秋祭り |
| ○○高年ｸﾗﾌﾞ | | | 河川清掃 | | | 河川清掃 | | |
| ○○子ども会 | | 球技大会 | | | | | 運動会 | |
| 地域づくり協議会 | | 球技大会 | | | 納涼祭 | 河川清掃 | 運動会 | |

| （調整後） | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ○○自治会 | | 球技大会 | 河川清掃 | | ~~盆踊り~~ | ~~河川清掃~~ | ~~運動会~~ | 秋祭り |
| ○○高年ｸﾗﾌﾞ | | | 河川清掃 | | | ~~河川清掃~~ | | |
| ○○子ども会 | | ~~球技大会~~ | | | | | ~~運動会~~ | |
| 地域づくり協議会 | | 球技大会 | | | 納涼祭（盆踊り） | 河川清掃 | 運動会 | |

■年間で実施する行事などを洗い出し、重複した事業や合同で行える事業について調整を行うことにより、負担の軽減や効率的な運営が期待できることがあります。

# Ⅵ　おわりに
## ～残された課題と地域づくりのコツ～

# 出雲市佐田町における自治組織の階層構造

人口3300人の町に
４階層

合意形成が
極めて困難

＜中学校区＞ 佐田自治協会

＜小学校区＞ 須佐自治協会　窪田地域振興協議会連合会

＜CB＝大字ベース＞ ６地区振興協議会　７地区振興協議会

＜集落＞ 26自治会　30自治会

何人ものキーパーソンにお伺い

（「スサノオの風資料」より作成）

# 地域公認の地域づくり実行集団の設置

佐田自治協会

＜協議機能＞

イエの集まり

＜実行機能＞

人の集まり

須佐自治協会

窪田地域振興協議会連合会

６地区
振興協議会

７地区
振興協議会

26
自治会

30
自治会

個別の協議を必要とせず委任

地域の声を斟酌して地域の実態にあった活動

やる気のある人
元気のある人

＜住民＞
女性・若者・子ども

＜住民以外＞
出身者・事業所
関係人口・大学等

ふるさと
創造会議

加西市

未来を考える講演会

# ありがとうございました

作野広和（島根大学教育学部）

0852-32-6107

hsakuno@edu.shimane-u.ac.jp

https://www.edu.shimane-u.ac.jp/staff/staff23.html